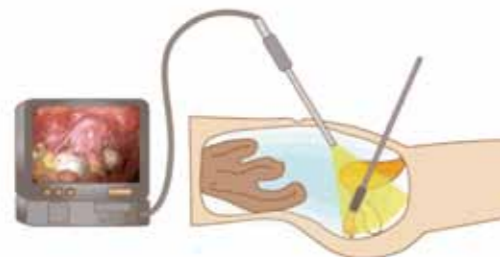


もっと知りたい！ からだにやさしい「内視鏡手術」

みなさんは、「内視鏡手術」をご存知ですか？

お腹に小さな穴を開けて細いカメラと鉗子を入れ行う手術のことです。
開腹手術に比べて、術後の痛みが軽く、傷口が小さくてすむのが特徴です。
当院長は、学会の厳しい審査の上に認定を受け手術を行っています。



① 内視鏡手術とは？

当院では、腹腔鏡下手術や子宮鏡下手術などの内視鏡手術を行っています。腹腔鏡下手術は、お腹に5～10mmほどの小さな穴を3、4ヶ所開け、そこから細いカメラと鉗子を入れて行う手術です。カメラの映像はテレビモニターに映し、モニターを見ながら手術をします。この手術では、お腹の中が2次元の

テレビモニターに映し出されるため、遠近感がつかみづらく慣れないと非常に難しい手術です。近年、日本外科内視鏡学会や日本産科婦人科内視鏡学会が、一定の技術を習得した医師に対して技術認定を行っています。この認定は、実際の手術回数と学会発表や論文などの学術的な活動をしているかに加え、実際の手術をビデオに撮り、それが審査されます。

② 内視鏡手術はどんな症例によいのでしょうか？

腹腔鏡下手術は、婦人科良性疾患である卵巣嚢腫、子宮内膜症、子宮外妊娠などで実施されています。子宮筋腫も大きさや手術内容によっては、この腹腔鏡で可能なこともあります。子宮鏡下手術は、子宮筋腫や内膜ポリープに行います。ただし大きすぎる腫瘍や、癒着がひどい場合などは、開腹手術となる場合が多く、内視鏡手術を行っても、術中に開腹手術に変更になることがあります。また、悪性が疑われる場合は、現在のところ開腹手術となるものがほとんどです。



適応症例

良性卵巣のう腫 / 子宮内膜症 / 子宮筋腫 / 不妊症 / 子宮外妊娠
など、婦人科良性疾患の多くが内視鏡手術の適応となります。

③ 内視鏡手術のメリットデメリットは？

メリット

1. 手術の傷が小さく美容的
2. 術後の痛みが軽い
3. 入院期間が短い(早く退院できる)
4. 早期の社会復帰(早く日常生活に戻る)
5. 術後の癒着が少ない(卵管などの癒着が起こりにくく不妊症になることが少ない)

デメリット

手術中の予期できない出血や癒着のために、開腹手術に移行したり輸血しなければならないことがあります(開腹する可能性は約300例に1例、輸血は500例に1例です)。腸管損傷、血管損傷、尿管損傷などの合併症は開腹術と同様です。その場合は最善の処置を行います。

開腹手術に比べデメリットはありません。

手術時に摘出したものが悪性のものであった場合には、後日再手術が必要になる場合があります。

④ 腹腔鏡専門医資格について

群馬県では、当院の院長を含めわずか7名の医師のみがこの認定を受けています。もちろん学会員でない先生や、申請を行っていない先生の中に、高い技術を持っておられる方もいらっしゃると思いますが、この認定がある程度の目安になることは間違いのないと思います。当院では、年間100件以上の腹腔鏡下手術を行っています。



⑤ 腹腔鏡下手術の流れ

手術日の決定と術前検査

手術日決定後、手術日の2週間前までに術前検査(血液検査、レントゲン検査、心電図など)を受け、相談コーナーにて入院予約。原則として手術日の前日入院。入院後に術前検査確認、再度診察の上、手術施行。

入院期間と費用

原則として入院期間は6泊7日(手術前日入院、術後5日目退院)。術後に出血や発熱、経過不良がある場合には退院が延期する可能性あり。入院と手術はすべて健康保険適用(個室使用料別途)。手術の方法により費用は異なります。

入院後のスケジュール

入院	手術	1日目	2日目	3～4日目	5日目
問診、シャワー、夕食後洗腸	朝洗腸、午後手術、麻酔(全身麻酔または脊髄麻酔)	点滴、採血、消毒、昼より食事開始、歩行開始	シャワー	採血、診察	退院